青年招へい事業

韓国

［交流レポート］

1996

国際協力事業団

JICA
110
36
TAY
BRARY

JICA LIBRARY
J 1133044 (6)

研青
JR
96-33

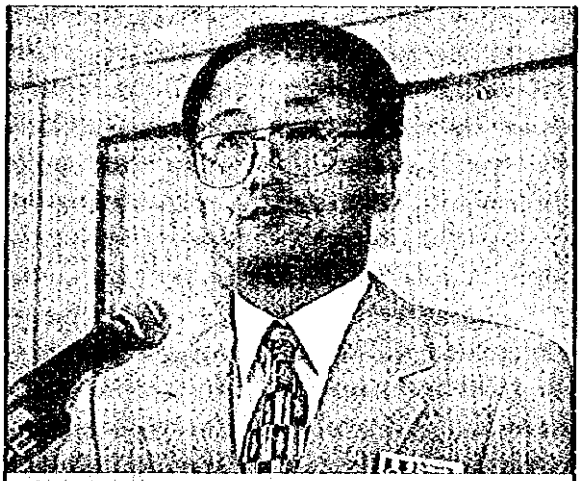
1133044(6)

平成8年度韓国青年招へい事業

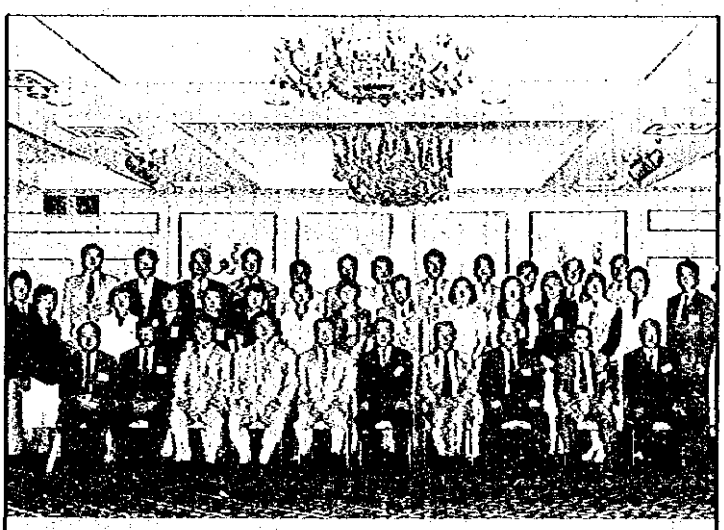
開講式

国際協力事業団より歓迎のあいさつ

外務省より歓迎のあいさつ



韓国青年代表よりあいさつ



緊張の面持ちで

和やかな歓迎会

共通プログラム

どこに行きましょうか?

講義に聞き入る青年

発表する青年

どんな 1カ月になるのかな?

日産横浜工場にて

分野別都内プログラム

どうぞよろしく

みなさんありがとうございます。

記念品贈呈

講義にも力がはいります。

日韓友情のあかし

新宿区役所にて

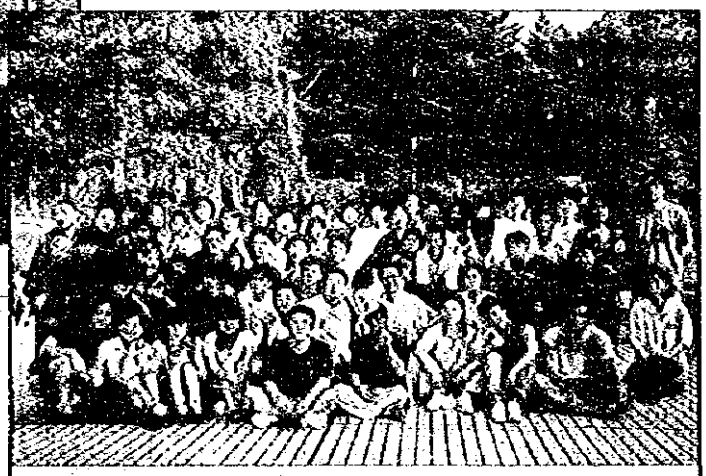
合宿セミナー…

「質問のある方どうぞ」(フィーリングカップル)

踊りを披露

はい、笑って…

全体発表



とても楽しい合宿セミナーでした。

分野別地方プログラム

はい、ポーズ。

日本文化体験

真剣に新聞を読む青年

思い出に記念撮影

いい思い出になりそうです。

ホームステイ・見学旅行

花火をしながら

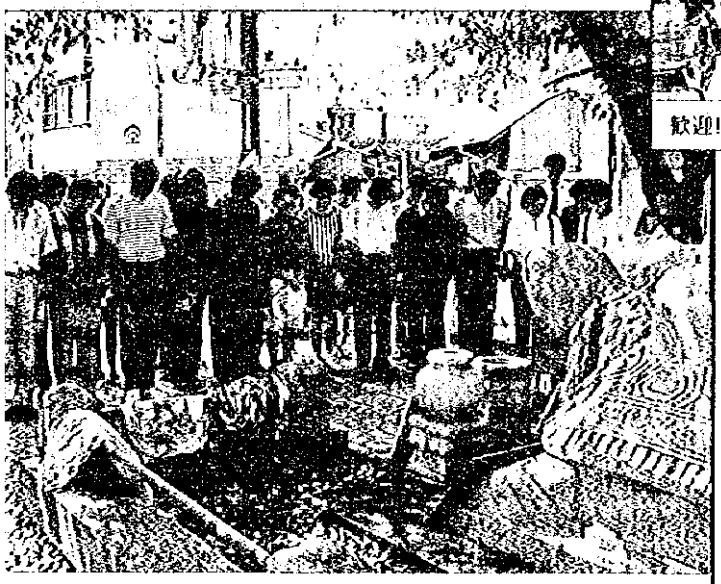
食事を前にして

どうするのかしら

清水寺にて

瀬戸大橋が見えます。

歓迎!!



平和を祈念

平和記念公園で写真撮影

歓送会

国際協力事業団よりあいさつ

拍手を送る青年

きれいな歌声ですね。

仲良くなった人たちと

最後にみんなで記念写真

青年招へい事業

はじめに

「青年招へい事業」は、国際協力事業団（JICA）が開発途上国を対象に実施する技術協力の一環として、アセアンをはじめ、アジア、太平洋、アフリカ諸国などから、将来の国造りを担う青年を、専門分野別に１カ月間招へいし、それぞれの分野について学ぶとともに、ホームステイ受入家族などとの幅広い交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くことを目的としています。

昭和59年度より平成７年度までの12年間で、日本を訪問したアジア・太平洋・アフリカ諸国の青年は13,454名に達しました。招へい国は当初アセアン６カ国でしたが、現在では太平洋諸国・地域、ミャンマー、中国、韓国、南西アジア諸国、モンゴル、アフリカ諸国、およびカンボディア、ラオス、ヴィエトナムのインドシナ３国が加わり大きな広がりをもってまいりました。

そして本事業開始以来13年目を迎えた平成８年度も、1,555名の青年の受け入れを無事終了することができました。これはひとえに、関係各方面の皆様のご協力と温かいご支援によるものと、心からお礼申し上げます。

本報告書は、招へい青年、合宿セミナーに参加した日本青年およびホームステイを引き受けていただいた全国の家庭の皆様から寄せられた感想文を中心に、招へい青年の１カ月の滞在記録をとりまとめたものです。本報告書が本事業のさらなる発展の指針となり、また皆様の良き思い出の一助となれば幸いです。

なお、本報告書は今年度の全招へい青年および各国の関係者にも送付させていただく予定です。

最後となりましたが、心温まるご感想、ご意見をお寄せいただいた皆様ならびに関係者の方々に重ねて厚くお礼申し上げますとともに、「青年招へい事業」がさらに有意義な交流プログラムとなりますよう、今後ともご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

平成９年３月

国際協力事業団
研修事業部
部長　森木　勝

目　　次

はじめに

1．韓国青年招へい事業

(1) 事業の概要 …… 7

(2) 招へい実績 …… 8

2．招へい青年の印象 …… 11

3．合宿セミナー参加日本青年の声 …… 15

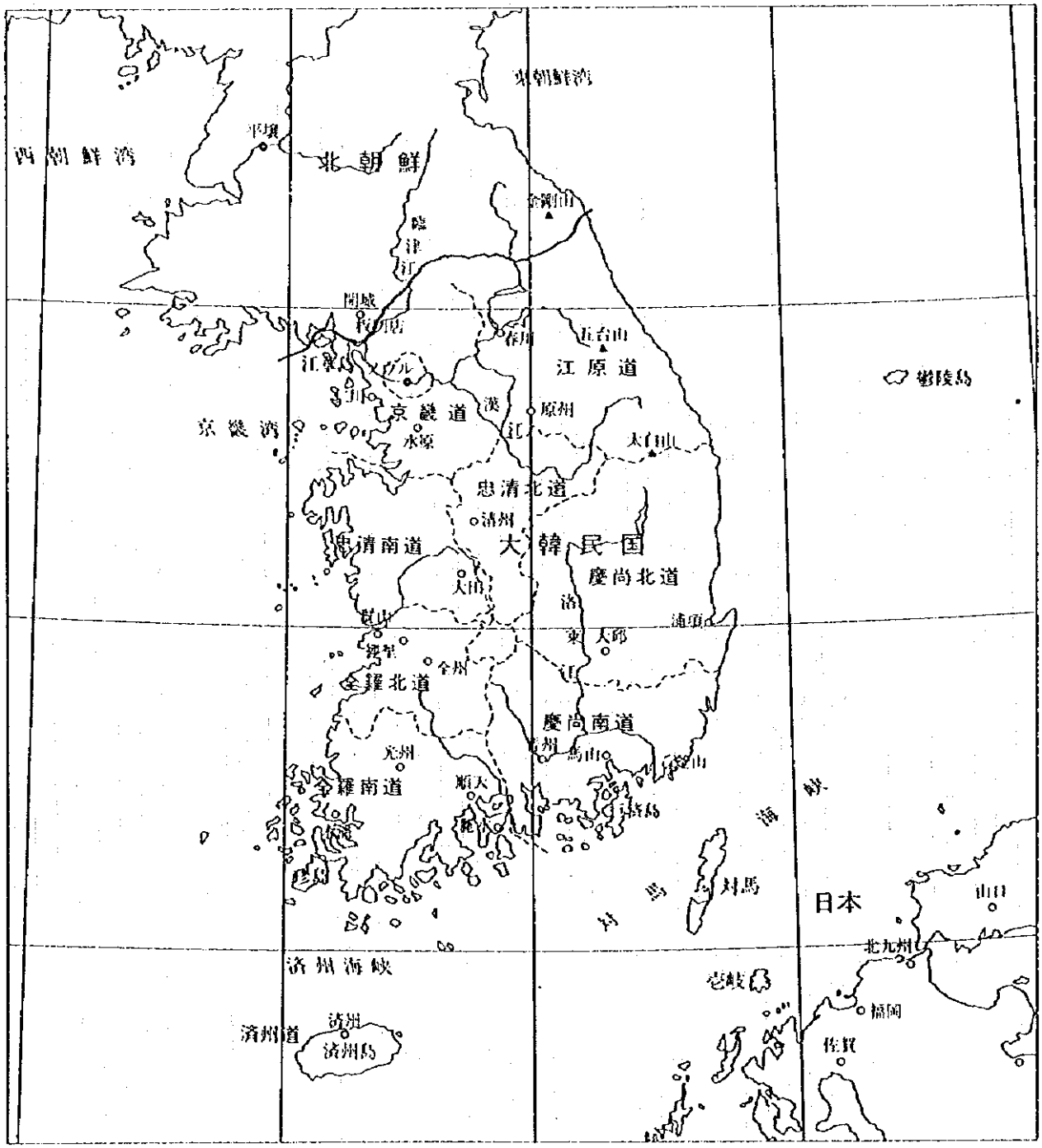
4．ホストファミリーの思い出 …… 19

〈実績資料〉

1．韓国青年招へい実績一覧 …… 23

2．平成８年度青年招へい実績一覧 …… 24

〈韓国青年名簿〉…… 27


東朝鮮湾
西朝鮮湾
平壤
北朝鮮
金剛山
臨津江
開城
五台山
江原道
鬱陵島
京畿道
京畿湾
水原
漢江
原州
太白山
忠清北道
清州
大韓民国
忠清南道
大田
慶尚北道
洛東江
大邱
浦項
全州
全羅北道
慶尚南道
光州
馬山
全羅南道
順天
海峡
対馬
日本
山口
北九州
壱岐
福岡
佐賀
済州海峡
済州道
済州
済州島

1. 韓国青年招へい事業

(1) 事業の概要

1) 事業の目的

21世紀に向けて、日本と韓国との友好と協力の関係をより強固かつ実りあるものとするため、未来の国造りを担う韓国の青年をわが国に招へいし、日本の同世代の青年との交流を通じ、相互理解を深め、真の友情と信頼を培うことを目的とする。

2) 実施方法

(a) 招へい人数

平成８年度は、100名の青年を同時期に受け入れる。

(b) 招へい対象者

下記分野における指導的立場にある18～35歳の青年。

(i) 青年指導者・公務員　25名

青少年活動者及び関係者、スポーツ・文化・社会奉仕等団体関係者。

(ii) 勤労青年（公務員）　25名

企業等勤労者、公務員、ジャーナリスト。

(iii) 教員（幼稚園）25名

教育機関教員、教育関係公務員。

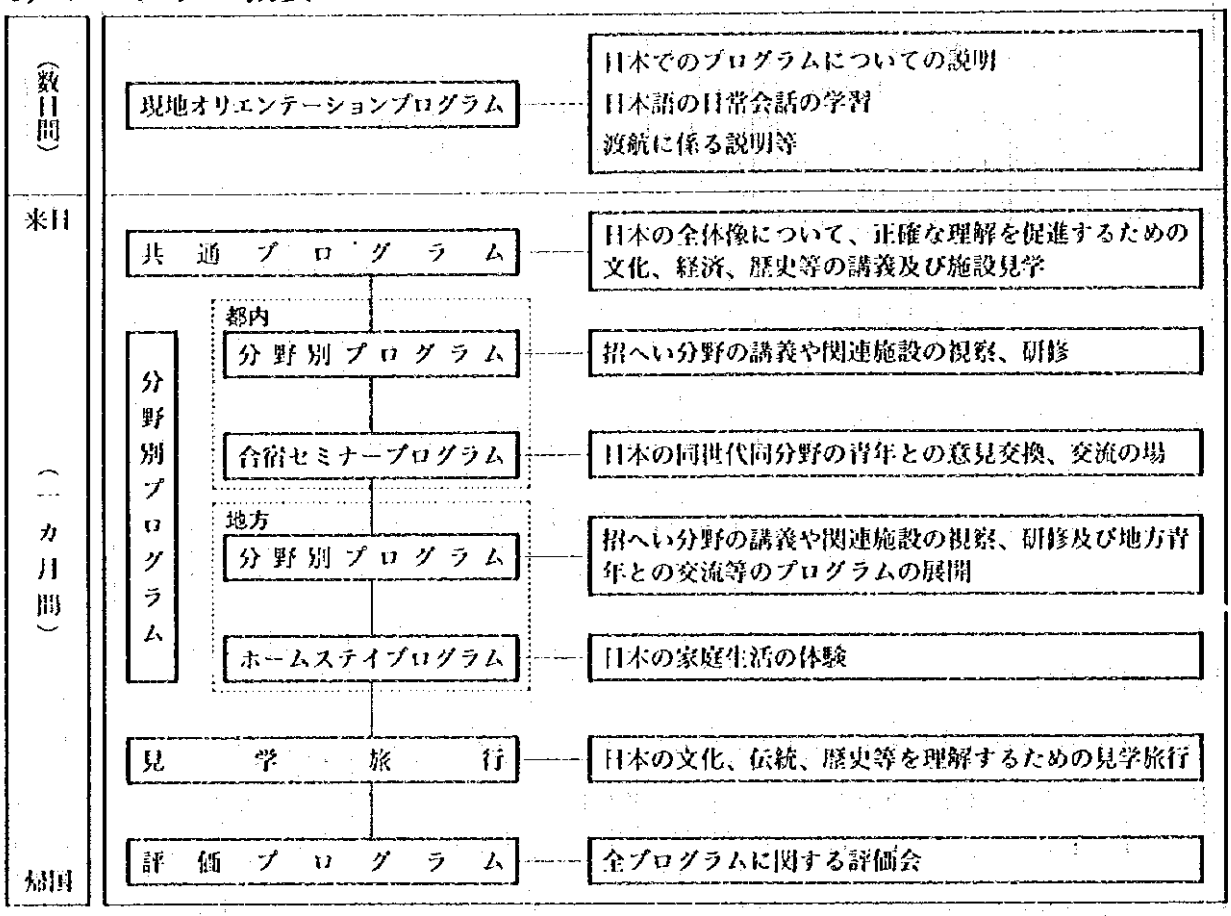
(iv) 学生（農水科系）25名

大学生、大学院生、各種学校等の学生。

(c) 招へい期間および時期

７月３日から８月１日までの１カ月間。

3) プログラム概要

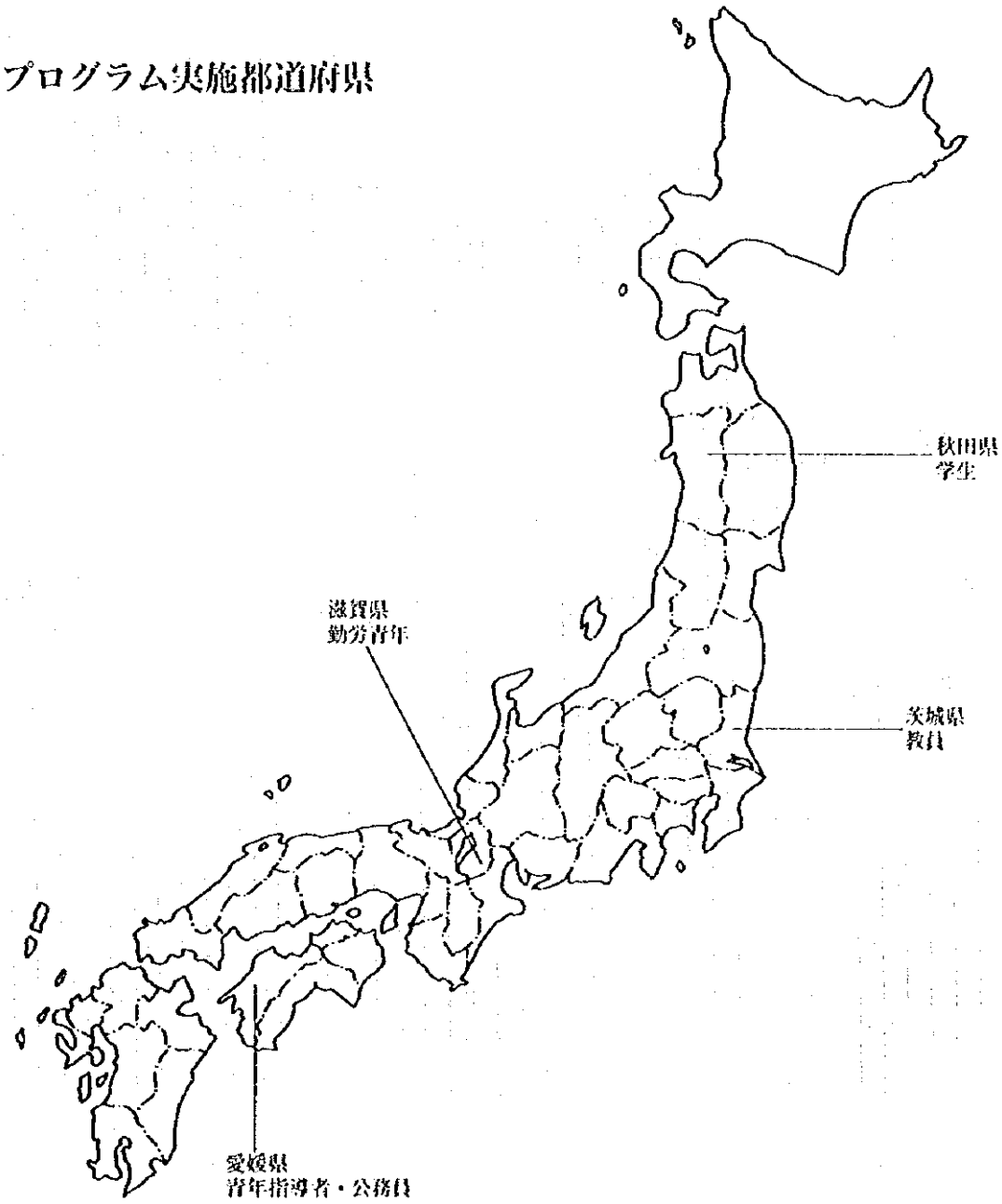


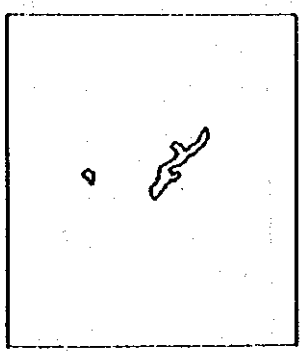
(2) 招へい実績

分野名	人数	実施協力団体	実施都道府県
青年指導者・公務員	25	日本ユースホステル協会	愛媛
勤労青年(公務員)	25	勤労厚生協会	滋賀
教員(幼稚園)	25	国際交流サービス協会	茨城
学生(農水科系)	25	世界青少年交流協会	秋田

＊共通・評価プログラムについては、日本国際協力センターが全グループに対して実施した。

分野別プログラム実施都道府県





2. 招へい青年の印象

日本訪問を終えて

南　沼蓮
（青年指導者グループ）

1カ月という滞在は決して短い期間ではないが、ひとつの国を、それも本音と建前があることで知られている「日本」という国を理解するには十分な時間ではなかった。

近くて遠い国。しかしながら、21世紀に向けて一緒に歩んで行かなければならない同伴者！　日本という国に対して残念ではあるが、ほとんどの韓国人は未だに否定的な感情をもっている。私たち一行を親切に温かく迎えてくれた多くの日本人。しかし、若い世代である私自身でさえ、それでも心の扉を大きく開くことができなかった。それは、私たちの過去の歴史が、心の隅に重くのしかかってくるという否定できない事実のためだ。

1カ月の間、消化しきれないほどたくさんのものを見聞きした。そのなかでも、最も印象的だったのは、1カ月という長い日程の間、なんの問題もなくプログラムを進行してきたJICA、ユースホステルの職員をはじめとする、訪問した機関、ホテル、観光地で出会った多くの日本人の徹底した職業意識だった。この職業意識が多くの問題点があるにもかかわらず、日本社会をしっかり支えている力ではないかと思った。愛媛での地方プログラムは日本の地方文化と地方自治体を直接見て感じることができ、とても意義深かった。「風の宅急便」などを制作しているボランティア団体を運営していて、ジーンズがユニホームだという藤田さん、小田町の森の学校でお会いした高本さん、独特なユーモアと誠実さで私たちを迎えてくれた愛媛県国際交流協会の藤井さん等、たくさんの日本人から受けた感動はそう簡単には忘れられないと思う。日本青年との合宿セミナー、日本の家庭でのホームステイ等もとても興味深い経験だった。

今夜が日本での最後の夜だ。明日は韓国に戻り、また普段の生活に戻ることになる。1カ月間ここ日本で体験したすべてのことが走馬灯のように頭の中を過ぎていく。私のこれからの人生において、本当に大切な思い出になることだろう。

日本は間違いなく私たちの隣に存在する。それも世界を動かす大国の姿で……。また、一方では21世紀のための準備を確実にしながら……。韓日間にとって21世紀は、良くも悪くも、お互いに協力し共存していかなければならない。お互いを理解しようとする積極的な努力がより一層必要だと思われる。そのためには難しいことではあるが、両国間の過去の歴史に関する問題をどうしても解決しなければならない。それなしで語る友情は虚しいものになるのでは……。

最後に1カ月間の長い日程中ずっと惜しみない努力と便宜を図ってくださったJICAに深く感謝し、筆を置きたいと思う。

韓国青年の日本記

盧　忠徳
(勤労青年グループ)

1カ月間の日本滞在を終え、個人的には期待以上のものを得ることができた。ある日本人は「日本は、目標がない」と言ったが、私は断じてそうではないと思う。先進国としての日本の地位は、これからも続くと思われる。

私がこのように判断する根拠は、次のようなことによる。まず、日本は忠実な資本主義国であるということ。「日産自動車工場」での努力、彦根市の「南極体験館」、京都の「西陣」などは伝統をかたくなに再生産していた。「南極基地」というのは、私たちには単なる歴史的事実に過ぎず、西陣織や友禅染の伝統などは生産とは結びつかない。

第2に、日本の教育に対する確信と投資のあり方を見て、日本の未来は明るいと思われた。滋賀県の青年団が催した自然保護活動がいい成果を生み出していることからもうかがえる。

第3に、交通行政における〝人中心〟の考え方である。横断歩道前の停止線の設定、制限速度遵守、ドライバーのマナーなど、日本の交通体系がエントロピーを低くしているのではないか。

4番目として、日本人は職務に忠実であるとの印象を胸に深く刻んだ。京都駅構内で、喫煙区域を清掃する作業員の行動は、私にとって、日本滞在中一番の衝撃であった。汚い吸い殻を集め、灰皿を布で拭い、水を取り替えていく一連の作業は、自己の職務に忠実な日本人の一面を表している。

いくつかの歴史的事実を認め、人類に対する貢献が伴うなら、日本は現在のままの地位を維持できるだろうと確信するものであり、私たちはどうすべきかを考えさせられた。

私が見た日本、そして日本人

金　美兒
(教員グループ)

来日するにあたって、私は一つの課題をもっていた。経済大国と言われる日本、この日本を支えている原動力（Energy）は何かを探ってみたいと思っていたし、最新設備の博物館、よく作られた日本製品を見るたびに、作った人々の魂に会いたいと思っていた。今この研修を終え、私なりの視点に立って日本を整理してみたいと思う。

空港に到着してから感じていた、秩序意識と公共の場所の徹底した清潔観念は、日本人の特性を見るような気がした。しかしながら、個々の日本人に会ってみると、親切で柔らかく、強い印象はあまり受けなかった。そして、ホームステイを経験して多くのことを知ることができた。質素で自制心のある60歳のお婆さんの、ありのままの生活を見て、また違う家庭を訪問してみて、外側から見た姿とは違って家の中ではなんの飾り気も見ることができなかった。

一杯のうどんを食べようとただ待ち続ける人々の忍耐力、書くこと、お茶を飲むこと、花を生け

ること、このひとつひとつにも「道」という言葉を使用する日本人は、これらを通じて自分自身を戒める自制力と忍耐力を培っているのかもしれない。このように個人の利益よりは国民全体の利益のため、秩序を守り、我慢をし、譲歩し、感謝するその心が世界に向けて目に見えない力となったのではないかと考えてみる。その反面、原宿で見かけた華やかな若者たちの姿は、日本の未来の姿なのか、日本化されていく過程の一段階なのかと疑問にも思った。短い期間ではあるが、日本を体験して、同時に自国のことについてもっと研究せねばと新たな意欲が湧いてきた。

最後に貴重な体験をさせてくれた関係者の皆様に深く感謝申し上げたい。

私が見た日本

崔　仁培
(学生グループ)

東京に到着した私たちは、韓国と似た建物と顔つきの似た日本人のなかで安堵感を得た。いろいろな経験のなかで一番意味があったことは、日本人との忌憚のない対話だった。

日本は豊かであるが、未だに戦争の傷痕をもつ一方、防衛力の増強には無関心、または反対という複雑な問題を抱えていると言っていた。

明治維新以来、外国での経験をもつ派閥による改革を通じ、先進文化の合理的模倣が成功裏に行われた。その後、日本特有の集団意識、勤勉さ、親切さを基盤として50年代の戦後の傷痕を覆いつくし、世界第二の経済大国になった現在、未来に対する理想像を求めてさまよっているのだそうだ。

大衆食堂で「有り難うございます」を繰り返す店員、日産自動車での中年の工員の熟練した手つき、道を尋ねた私たちに地図を買って案内してくれたおばさん、一年中、いろいろな祭りが絶えない地方の街、華やかで多種多様なお菓子と手工芸品、多くの公園と娯楽施設などが表の日本だとしたら、午前0時過ぎに公園で夜空をぼんやりと眺める会社員、街のたくさんのパチンコ店、髪を染めた若者、オウム真理教の社会テロ等は社会集団の中で自分を見失ってあがいている日本の裏の顔に見えた。

似ている社会的背景をもつ韓国の学生として、今回の研修は自分を振り返ってみる良いきっかけになり、親切で勤勉な日本が私の初めての訪問国であったことをとてもうれしく思っている。

3. 合宿セミナー参加日本青年の声

韓国青年たちに学んだこと

松岡さくら子
（団体職員）

韓国といえば日本からたいへん近く、最も身近な国だと思っていました。しかし、今回の合宿セミナーの分科会で韓国青年と話をするうち、私は韓国について何も知らないことに気づきました。

今現在、日本には多くの在日韓国・朝鮮人がいます。私の近所にもたくさんの方が住んでいます。小さい頃から遊んだ友達のなかにもいましたが、ほとんど日本人と変わらず、普段の生活のなかで在日韓国・朝鮮人であることは全く感じませんでした。学校や地域のなかでも彼らの文化や歴史についてほとんど何も教わっていないように思います。また、自分自身もそのことについて何も知ろうとしていなかったと思います。周囲との違いに誇りをもって生活できないような社会の仕組みや住民の意識に問題があるのではないかと思います。

今回の分科会で韓国青年から、日本人が韓国に対してあまり関心をもっていないことを指摘されました。これから21世紀に向けて、韓国と日本が新しいパートナーシップを築くためには、まず、お互いに興味、関心をもち、お互いのことをよく知る必要があるということを彼らから学びました。日常の身近なところにも目を向け、自分の周りから変えていきたいと思います。

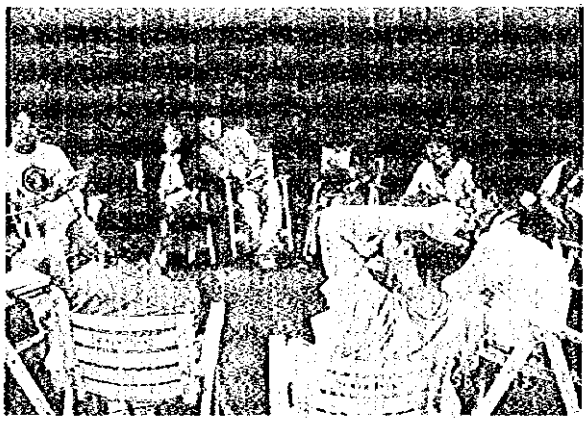
最後に、通訳をしてくださった皆さん、そして、セミナーを支えてくださったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

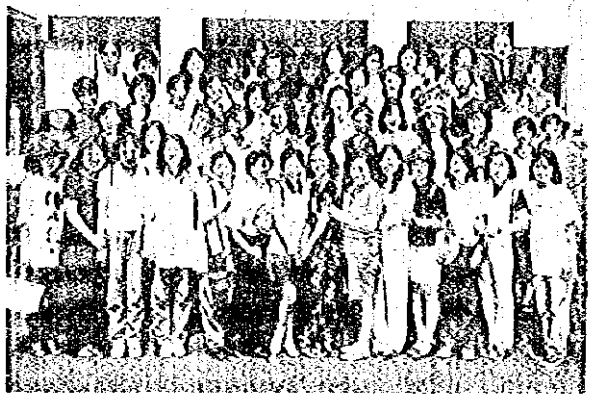
東京よりも近いところ

池田　尚
（公務員）

私は今、地図を眺めている。知ってはいたが、私の故郷である福岡県から釜山まではとても近い。定規で計るまでもなく、福岡・東京間よりもはるかに近い。ただそこに、対馬海峡と国境というものがあるだけの違いだ。海峡というものは見ることができるが、国境というものは見えない。こうして地図を眺めていると、日本と韓国は違う色で印刷されている。しかし、私にとって初めての、韓国に住む韓国人の友人たちを想うとき、私のなかで２つの国の色が同じに見えてくる。実体のない国境というものは、対馬海峡の上にでなく、私の心の中にあったのかもしれない。

それにしても、私の耳に今でもアリランの歌が住みついて離れない。CDを買って何度も聞いたせいもあるが、私は初めて見たアリランの歌と踊りに、郷愁に似た懐かしさを感じたからである。幼い頃に故郷の筑豊で見た盆踊りとダブったのかもしれない。途中のソロは盆踊りの端唄と似ている。私にとって韓国は東京よりも近いところなのである。そう感じたのは、アリランからだけではない。





「ひとつ」のことを「ハナ」と言うこと。よく歌い、よく踊ること。団結力。自分をさらけ出しての交際のしかた。「真っ赤なウソ」や「真っ白な夜」に代表される表現方法。そして何よりも容姿。福岡名産とされる辛子明太子のルーツはキムチじゃないだろうかなどと考えたりもする。

このセミナー以来、私は通勤電車の中で韓国語会話の本を読んでいる。セミナーのときだけで終わらせたくない韓国の友人との今後の交流を楽しみにしているからである。おそらく、韓国語会話の本が、まもなく役に立つことを記して私の感想とする。

「今度は韓国で会おうね」

山崎　みさ
(団体職員)

とにかく明るい、というのが今回出会った韓国人の印象です。彼女たちにとって、ここは外国であり、異文化のなかであるのに、怖じ気づいた態度もぎこちない仕草も見せず、私たちをリードしていくその積極性は、合宿セミナーを終えた今でも私のなかで、〝学ぶべき一面〟として残っています。

みんなで一喜一憂したスポーツ大会、相手国の言語で自己紹介した交歓会、お互いの結婚観について意見を出し合った討論会、自国の文化を披露した交流の夕べ、それに大自然のなかでの川下り等、すべてが私にとって貴重な経験であり、一生の思い出です。

彼女たちと笑っていると、〝近くて遠い国〟と言われている韓国を身近に感じました。その半面、歴史の話題になると消極的になるお互いを意識し、「やはり遠い国なのか」と思わざるを得なかったこともありました。しかし、そう思ったのも束の間、人なつっこい彼女たちと時を過ごすにつれて、お互いがお互いを姉妹のように思える、何とも言い難い温かさにふれることができました。

腕を組んだり、手を握り合ったり、と私たちの国と比べてスキンシップの多い韓国文化に始めは躊躇していた私たちも、合宿セミナーの終わる頃にはその手に友情をしっかりと感じていました。親しくなったら心のすべてを見せる韓国の方々と過ごした3日間で、〝人の心の柔らかさ、美しさ〟に改めて接しました。そして、「今度は韓国で会おうね」と約束し、彼女たちとは一生の友達でありたい、と思いました。

最後になりましたが、この合宿セミナーに参加できたことを誇りに思うと同時に、この機会を得たことに心から感謝いたします。どうもありがとうございました。

日韓学生合宿セミナーに参加して

山田　香織
（学生）

この3泊4日の合宿セミナーで得たものは何だろうと必死に考えるのですが、ただ漠然とした感動ばかりが押し寄せてきて、気持ちを整理し論理的に表現することがなかなかできません。もちろん韓国の言葉や文化、歴史等への理解は深まりましたが、それ以上の何か、彼らに対する親しみや尊敬などいろんな感情をひっくるめたような温かい気持ちが心の中いっぱいに広がっています。

セミナー前に韓国・朝鮮について学ぶうち、日本人の彼らに対するイメージが、他の外国人へのそれと比べて非常に否定的なのに驚きました。また私の友人も、韓国人に対し暗いイメージをもっていると言いましたが、理由を尋ねても「何となく」としか答えませんでした。

人に内在する偏見や差別の感覚は、論理的な言葉や正しい知識をもってしてもたちうちできないことがよくあります。特に年齢を重ねるにつれて、外部から新しいものを取り入れることは、たとえそれが正しい考えや行為だとしても難しいものです。韓国・朝鮮人に対する偏見も、ほとんどが感覚的な部分に根ざしており、社会的風潮として大人から若い世代へと伝わってきたものなのでしょう。

私は、正しかろうが誤っていようが長く人の中に残っていくそのような部分を、考えの柔軟な若いうちに、うわさや風潮にまどわされない自分の経験から形成できたことを非常にうれしく思います。今すぐにでも、社会の悲しい風潮をそのまま受け入れてしまった友人のところへ飛んでいき、彼女の見解について一緒に考え直したいと思います。私たちこそ、澄んだ目で韓国人と向き合える新しい世代になりたい、そしてそのためなら私のできることは何でもしよう、そう強く感じています。

4.ホストファミリーの思い出

隣国の友人を迎えて

鈴木　恵眞
（愛媛県）

7月19日、愛媛県国際交流協会から韓国青年受け入れの機会をいただき、隣国の友人、鄭さんを迎えられたことに深く感謝いたします。

鄭さんは、私同様に、宗教家ということで、互いに宗教について、言葉の壁にもどかしさを感じながら、筆談したりで一時を過ごしました。果たして、互いに正しく理解し合えたかは疑問ですが、互いに理解しようと努めたことは確かであり、心の触れ合いをもつことができました。

鄭さんと過ごした3日間で、私の鄭さんに対するイメージが変わりました。それは、鄭さんが、実にまめであるということです。最初の夕食準備では、天ぷらの衣を付けたり、皿を配ったりと自然に体が動くのには驚かされました。そして、食べ始めてからもよく気がつくのです。聞くと、韓国でもお母様の手伝いをしているとのことで、頭が下がる思いとともに、韓国で青少年指導に敏腕をふるっておられることがみてとれました。

2日目には、友人を招いて鄭さんを囲み、屋外で焼肉をしました。本場韓国のソースをいただき、いつもと違った焼肉を賞味しながら、韓国文化の一端に触れた気になりました。

食後には、鄭さんの希望で、友人のサックス演奏があり、子供たちはピアノに合わせ流行歌を歌い、鄭さんの歌も飛び出したりと、楽しい盛り上がりをみせました。鄭さんが、子供たちと花火をしている様子には、以前からの友人の顔がありました。

時が過ぎるのを忘れた3日間は終わり、我が友人鄭さんは、良き思い出と友情の輪を残して去って行きました。鄭さんのますますの活躍を祈願して終わりたいと思います。

合掌

私のボランティア

堀江　弥生
（茨城県）

ホームステイの受け入れを夫からもちかけられたとき、私は反対しました。何故ならひとつは言葉の問題、そしてもうひとつは、いくら家族と同様にと言われても不慣れな私たちにとってはお客様という感覚が抜けず気が重かったからです。それでも夫にしつこく粘られ、夫に対するボランティアで受け入れることをOKしたのでした。

私たち家族が受け入れたのは、韓国人女性のチェ・ユンミという幼稚園教諭でした。彼女には「気を使わないでください」などと言っておきながら、こちらの方が気を使ってホームステイが始まったのでした。家族の話、韓国の話など身近なことからお互いの国のことを理解し、楽しくなっていき

ました。また言葉の通じた喜びもあり、不思議なくらい話すことが楽しくなりました。

子供というのはすごいもので、3歳の娘が慣れるのは一番早かった気がします。次の日の朝、部屋に行ってみると、2人の笑い声が聞かれました。言葉など分かっていないのに遊べるなんて、やはり理解し合うのは言葉ではないということを娘が実践している気がしました。夜にはもうひとつのホストファミリーと一緒になってバーベキュー大会をし、韓国の民族衣装を着せてもらったり、娘の七五三の着物姿を見せるなどして楽しく過ごせました。

あっという間に終わってしまった2泊3日、帰る日には物足りなささえ感じてしまいました。短い間でしたが韓国を身近な国として理解できた気がします。娘も「お姉ちゃん、また来るよね」とちゃんと国際交流したようです。私も今度ホームステイのお話があったら夫へのボランティアではなく、本当のボランティアとして受け入れたいと思いました。

異国の息子たちよ、頑張れ!

鷹田　直
（秋田県）

外国人のホームステイ受け入れは初めてであり、言葉や食事に多少不安を抱きながらの受け入れであったが、日本や日本人を理解してもらうにはホームステイが一番と家族で話し合い、気取らず、"日本、田舎、農家"の3つにこだわってもてなすことにした。

初日は夜の迎えでもあり、田舎料理で一献交え、すぐに打ち解けることができた。翌日は農作業体験もしてもらったが、彼らの一番の思い出になったのは私の父母（おじいちゃん、おばあちゃん）と近くを観光したことのようだ。祖父母のいない学生もおり、それは楽しそうであった。また、私が最も感心したことは彼らの礼儀作法の良さである。何をするにも目上、女性を優先させる謙虚な姿勢には脱帽した。女性が席に着かなければ箸を持たない。飲み物をつぐにもつがれるにも必ず正座して両手を添える。食事の後片付けはもちろん農作業も進んで手伝おうとする。お客さんだからと一皿多くつけると「一緒に食べましょう」と分けてくれようとするのには私の方が照れてしまった。私には同年代を上に3人の息子がいるが、その息子たちにたいへん良い勉強をさせていただいたと感謝している。

彼らは日本の農業に関心が深く、夜遅くまで話が続いた。分からない言葉は子供たちが英語に直し、それはにぎやかであった。互いの国を理解しながら、農業を世界の食糧源として考えるべきことを教わった気がする。

2人は農業を基礎とした教師や公務員になることを話してくれた。目的に向かって頑張ってほしい。数年後ハネムーンで我が家を訪ねてくれることを約束しての別れであった。「ありがとう」、この言葉はこちらが言うべき心温まる3日間であった。

実績資料

1. 韓国青年招へい実績一覧

●平成4年度（99名）

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
学生	26	世界青少年交流協会	静岡	関東	静岡県国際交流協会
教員	25	日本国際協力センター	秋田	東北	秋田県国際交流協会
勤労青年	25	勤労厚生協会	愛媛	四国	愛媛県青年海外協力協会
青年指導者	23	青少年育成国民会議	北海道	北海道	北海道YMCA

●平成5年度（96名）

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
学生	25	世界青少年交流協会	石川	北陸	石川県世界青年友の会
教員	24	日本国際協力センター	岩手	東北	(財)岩手県国際交流協会
勤労青年	23	勤労厚生協会	高知	四国	(財)日本青年会議所高知ブロック協議会
青年指導者	24	日本ユースホステル協会	新潟	関東	(財)新潟県ユース・ホステル協会

●平成6年度（100名）

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者	25	日本ユースホステル協会	沖縄	沖縄	沖縄県ユース・ホステル協会
教員	25	青年海外協力協会	北海道	北海道	北海道青年海外協力隊OB会道東支部
勤労青年	25	勤労厚生協会	埼玉	関東	上尾市国際交流推進委員会
学生	25	世界青少年交流協会	新潟	関東	新潟県世界青年友の会

●平成7年度（98名）

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者・公務員	25	国際交流サービス協会	新潟	関東	(財)新潟県国際交流協会
勤労青年	23	勤労厚生協会	埼玉	関東	上尾市国際交流推進委員会
教員	25	日本ユースホステル協会	福井	北陸	(財)福井県国際交流協会
学生	25	世界青少年交流協会	秋田	東北	秋田県世界青年友の会

●平成8年度（100名）

	人数	実施協力団体	実施都道府県	JICA支部等	地方協力団体
青年指導者・公務員	25	日本ユースホステル協会	愛媛	四国	(財)愛媛県国際交流協会
勤労青年	25	勤労厚生協会	滋賀	関西	滋賀県青年団体連合会
教員	25	国際交流サービス協会	茨城	筑波国際センター	平成8年度茨城県外国青年招へい事業実行委員会
学生	25	世界青少年交流協会	秋田	東北	(財)秋田県国際交流協会

2. 平成8年度青年招へい実績一覧

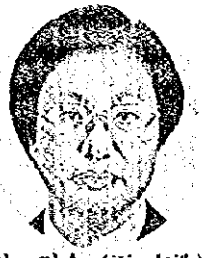
受入時期 陣・人数	国名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
5月16日～ 6月14日 1陣 116人	インドネシア	社会開発	25	日本ユースホステル協会	北海道	千歳国際交流協会
	インドネシア	経済A	20	日本経済青年協議会	福井	(財)福井県国際交流協会
	インドネシア	経済B	24	勤労厚生協会	島根	島根県国際交流青友会
	フィリピン	教育	22	青少年育成国民会議	山梨	(社)青少年育成山梨県民会議
	フィリピン	社会開発	25	青年海外協力協会	北海道	青年海外協力隊北海道OB会道東支部
5月22日～ 6月20日 2陣 118人	シンガポール	教育	22	世界青少年交流協会	岡山	岡山県世界青年友の会
	シンガポール	社会開発	25	ユースワーカー能力開発協会	宮崎	ユースワーカー能力開発協会宮崎県支部
	シンガポール	経済B	24	国際交流サービス協会	富山	(財)とやま国際センター
	タイ	教育	22	青少年育成国民会議	北海道	(財)北海道YMCA
	タイ	社会開発	25	日本友愛青年協会	岡山	(財)岡山県青年館
6月5日～ 7月4日 3陣 99人	ヴィエトナム	公務員	25	公務研修協議会	北海道	とまこまい国際交流センター
	ヴィエトナム	経済	24	勤労厚生協会	大阪	(財)太平洋人材交流センター
	マレイシア	経済経営	25	世界青少年交流協会	福島	福島県青年海外派遣友の会
	マレイシア	中小企業	25	日本ユースホステル協会	大分	大分県海外協会
6月20日～ 7月19日 4陣 92人	シンガポール	経済A1	20	ユースワーカー能力開発協会	広島	しょうばら国際交流協会
	シンガポール	経済A2	24	日本経済青年協議会	埼玉	上尾市国際交流協会
	カンボディア	教育	30	青少年育成国民会議	山形	(財)山形県国際交流協会
	ラオス	教育	18	国際交流サービス協会	高知	(財)高知県国際交流協会
6月27日～ 7月26日 5陣 89人	太平洋混成	公務員	24	青年海外協力協会	愛媛	愛媛県青年海外協力協会
	太平洋混成	教員	23	日本国際生活体験協会	三重	(財)三重県国際交流財団
	パプア・ニューギニア	公務員	10	世界青少年交流協会	北海道	(社)北海道子ども会育成連合会
	パプア・ニューギニア	教員	20	日本国際協力センター	山口	山口県青年団体連絡協議会
	フィジー	公務員	12	愛知県国際交流協会	愛知	(財)愛知県国際交流協会
7月3日～ 8月1日 6陣 100人	韓国	青年指導者・公務員	25	日本ユースホステル協会	愛媛	(財)愛媛県国際交流協会
	韓国	勤労青年(公務員)	25	勤労厚生協会	滋賀	滋賀県青年団体連合会
	韓国	教員(幼稚園)	25	国際交流サービス協会	茨城	平成8年度茨城県外国青年招へい事業実行委員会
	韓国	学生(農水科系)	25	世界青少年交流協会	秋田	(財)秋田県国際交流協会
8月21日～ 9月19日 7陣 119人	ヴィエトナム	教育	25	ユースワーカー能力開発協会	沖縄	(財)沖縄県国際交流財団
	ヴィエトナム	農業	25	青年海外協力協会	熊本	熊本県青年海外協力協会
	フィリピン	経済A	20	日本ユースホステル協会	鹿児島	(財)鹿児島県国際交流協会
	フィリピン	経済B	24	日本経済青年協議会	香川	(財)香川県国際交流協会
	フィリピン	農業	25	世界青少年交流協会	青森	青森県青年海外協力協会
8月29日～ 9月27日 8陣 97人	バングラデシュ	公務員	20	青年海外協力協会	北海道	青年海外協力隊北海道OB会道東支部
	ブータン、モルディヴ	教育	10	日本ユネスコ協会連盟	佐賀	佐賀ユネスコ協会
	インド	教員(理数科教員)	27	世界青少年交流協会	岐阜	岐阜県世界青年友の会
	ネパール	教育	10	日本国際協力センター	新潟	(財)新潟県国際交流協会
	スリ・ランカ	教育	10	青少年育成国民会議	和歌山	(社)和歌山県青少年育成協会
	パキスタン	保健医療	20	国際看護交流協会	福岡	(財)国際看護交流協会

受入時期 陣・人数	国　名	分野名	人数	実施協力団体	実施県	地方団体
9月11日 ～ 10月10日 9陣 115人	タイ	農業	25	青年海外協力協会	静岡	沼津国際交流協会
	タイ	経済A	20	日本国際協力センター	福岡	福岡県海外青年招へい事業実行委員会
	タイ	経済B	24	勤労厚生協会	愛知	ジャパンヤングサークル東海支部
	ブルネイ	社会開発	16	日本ユースホステル協会	石川	(財)石川県ユース・ホステル協会
	ミャンマー	教育	20	青少年育成国民会議	北海道	青年海外協力隊北海道OB会
	モンゴル	公務員	10	国際交流サービス協会	石川	金沢国際交流財団
9月19日 ～ 10月18日 10陣 113人	マレイシア	農業開発	16	青年海外協力協会	岩手	(財)岩手県国際交流協会
	マレイシア	教育	25	日本国際生活体験協会	京都	(社)青年海外協力協会近畿支部
	マレイシア	科学技術開発	25	豊川市国際交流協会	愛知	(財)豊川市国際交流協会
	インドネシア	農業	25	世界青少年交流協会	香川	香川県海外派遣友の会
	インドネシア	教育	22	日本国際協力センター	山形	山形県青年海外協力協会
10月2日 ～ 10月31日 11陣 100人	中国	青年指導者	25	日本ユースホステル協会	宮城	宮城県ユース・ホステル協会
	中国	経済青年	25	日本経済青年協議会	長崎	長崎県世界青年友の会
	中国	公務員	25	ユースワーカー能力開発協会	福井	武生市国際交流協会
	中国	教員	25	日本国際協力センター	兵庫	(財)兵庫県青少年本部
10月17日 ～ 11月15日 12陣 95人	アフリカ					
	英語圏	女性教員1	28	大阪府国際交流財団	大阪	(財)大阪府国際交流財団
	仏語圏	女性教員2	22	青年海外協力協会	岡山	津山と世界を結ぶ会
	英語圏	経済開発 公務員1	23	国際交流サービス協会	徳島	徳島県青年海外派遣の会
	仏語圏	経済開発 公務員2	22	世界青少年交流協会	新潟	新潟県世界青年友の会
10月23日 ～ 11月21日 13陣 88人	ASEAN混成	教育1	18	大阪府国際交流財団	大阪	(財)大阪府国際交流財団
	ASEAN混成	教育2	17	日本国際生活体験協会	群馬	(財)群馬県国際交流協会
	ASEAN混成	経済1	18	日本国際協力センター	千葉	(財)千葉県国際交流協会
	ASEAN混成	経済2	18	青少年育成国民会議	福岡	(社)九州・山口経済連合会
	ASEAN混成	経済3	17	勤労厚生協会	静岡	(財)静岡県国際交流協会
11月6日 ～ 12月5日 14陣 114人	ASEAN混成	環境保全	30	日本経済青年協議会	北海道	釧路市海外青年招へい事業実行委員会
	ASEAN混成	社会福祉	30	日本ユースホステル協会	石川	小松市国際交流協会
	ASEAN混成	保健医療	30	国際看護交流協会	奈良	(財)国際看護交流協会
	ASEAN混成	行政B	24	国際交流サービス協会	大阪	大阪府青少年活動財団
11月13日 ～ 12月12日 15陣 100人	中国	産業基盤整備	25	世界青少年交流協会	山口	世界青年徳山友の会
	中国	経済開発	25	勤労厚生協会	栃木	栃木県外国青年招へい事業実行委員会
	中国	地域振興	25	日本国際協力センター	鳥取	とっとり青友会
	中国	人材育成	25	青年海外協力協会	沖縄	(社)沖縄県青少年育成県民会議
合　計	70グループ 1,555人	ASEAN６カ国（797）、太平洋14カ国・地域（89）、ミャンマー（20）、中国（200）、韓国（100）、南西アジア諸国７カ国（97）、モンゴル（10）、アフリカ諸国38カ国１国際機関（95）、カンボディア（30）、ラオス（18）、ヴィエトナム（99）計72カ国・地域、１国際機関				

韓国青年名簿

青年指導者・公務員

도 종수 (都 鍾洙)
Do Jong-Soo


정 길수 (丁 吉洙)
Jeong Gil-Soo

박 중규 (朴 重奎)
Park Jung-Kyu

남 소연 (南 沼蓮)
Nam So-Youn

강 성태 (姜 成郁)
Kang Seong-Tae

김 성일 (金 成一)
Kim Sung-Il

김 경남 (金 暻男)
Kim Kyung-Nam

박 병주 (朴 炳柱)
Park Boung-Joo

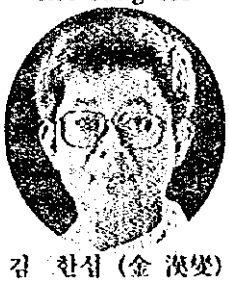
정 춘희 (鄭 椿姬)
Chung Chun-Hee

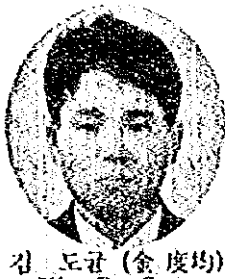
이 상호 (李 相昊)
Lee Sang-Ho

이 동훈 (李 東薰)
Lee Dong-Hun

황 병세 (黃 炳世)
Hwang Byeong-Se

신 의경 (申 義敬)
Shin Eui-Kyung


김 한섭 (金 漢燮)
Kim Han-Soub


김 도균 (金 度均)
Kim Do-Gyun

이 연숙 (李 蓮叔)
Lee Youn-Suk

정 현석 (鄭 鉉錫)
Jeong Hyun-Suk

조 혜숙 (曺 惠淑)
Cho Hye-Sook

남 현성 (南 鉉城)
Nam Hyun-Sung

이 동희 (李 東姬)
Lee Dong-Hee

이 향림 (李 香林)
Lee Hyang-Lim

안 학정 (安 鶴靜)
An Hak-Jeng

정 영아 (鄭 英牙)
Jung Young-A

박 정화 (朴 貞和)
Park Jung-Hwa

박 영선 (朴 榮先)
Park Young-Sun

勤労青年

김 동하 (金 東河)
Kim Dong-Ha

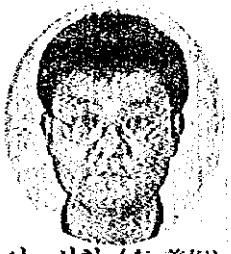
최 진 (崔 珍)
Choi Jin

장 수경 (張 秀卿)
Chang Su-Kyung

박 주옥 (朴 珠玉)
Park Ju-Ok

나 서경 (羅 西京)
Na Seo-Kyung

조 원미 (趙 元美)
Cho Won-Mi


이 선형 (李 善炯)
Lee Sun-Hyung

한 현경 (韓 賢暻)
Han Hycon-Kyeong

신 영례 (申 英禮)
Shin Young-Rea

우 현숙 (禹 鉉淑)
Woo Hycon-Suk

이 영일 (李 榮一)
Lee Young-Il

전 호수 (田 昊秀)
Jeon Ho-Su

유 해경 (柳 海暻)
You Hae-Kyung

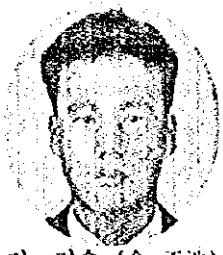
전 춘성 (全 春晟)
Jeon Chun-Sung

이 종철 (李 鍾哲)
Lee Jong-Cheul

김 영식 (金 永植)
Kim Young-Sig

고 영구 (高 英九)
Go Young-Goo

이 광인 (李 光彦)
Lee Kwang-Un


김 정수 (金 正洙)
Kim Jeong-Soo

김 명심 (金 明心)
Kim Myung-Sim

조 춘택 (曺 春澤)
Cho Chun-Taek

김 효정 (金 孝貞)
Kim Hyo-Jeong

노 충덕 (盧 忠德)
Rho Choong-Deok

유 희정 (柳 熙靜)
Lyu Hee-Jung

신 성철 (申 成哲)
Shin Sung-Chul

教 員

권 미애 (權 美愛)
Kwon Mi-Ae

이 경선 (李 庚善)
Lee Kyung-Sun

전 혜성 (全 惠晟)
Jeon Hye-Seong

최 수자 (崔 秀子)
Choi Soo-Ja

양 연실 (梁 連實)
Yang Yean-Sill

장 효정 (張 孝貞)
Jang Hyo-Jeong

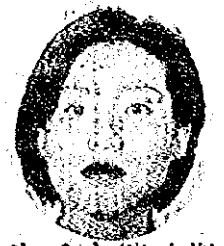
황 은숙 (黃 恩淑)
Hwang Un-Suk

이 옥주 (李 玉珠)
Lee Ok-Ju

박 현주 (朴 賢珠)
Park Hyun-Ju

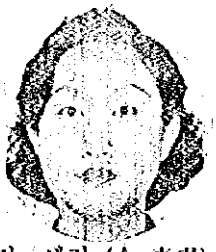
류 은옥 (柳 垠玉)
Ryu Eun-Ok

오 정은 (吳 征殷)
Oh Jung-Eun


최 윤미 (崔 允美)
Choi Yoon-Mi

김 순옥 (金 順玉)
Kim Sun-Ok

홍 선희 (洪 善姬)
Hong Sun-Hee


전 혜경 (全 惠璟)
Juen Hea-Kung

이 은주 (李 恩珠)
Lee Eun-Ju

신 금주 (申 錦珠)
Sin Kum-Ju

이 명자 (李 明子)
Lee Myung-Ja

김 정아 (金 廷我)
Kim Joung-A

김 희 (金 姬)
Kim Hee

김 선숙 (金 先淑)
Kim Sun-Sook

윤 양수 (尹 揚秀)
Yun Yang-Su

서 주옥 (徐 州玉)
Seo Ju-Ok

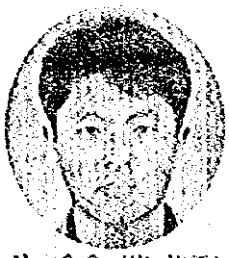
김 희숙 (金 喜淑)
Kim Heu-Sook

김 미아 (金 美兒)
Kim Mi-A

최 인배 (崔 仁培)
Choi In-Bea

강 미정 (姜 美正)
Kang Mi-Jeong

学 生


최 용운 (崔 龍雲)
Choi Yong-Woon

염 수일 (廉 守一)
Yeom Su-Il

이 두수 (李 斗秀)
Lee Doo-Soo

이 승신 (李 承信)
Lee Seung-Shin

정 진영 (鄭 晋永)
Jeong Jin-Young

임 경호 (林 敬鎬)
Im Kyeong-Ho

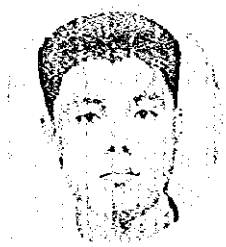
김 중석 (金 重奭)
Kim Jung-Suk

김 소림 (金 小林)
Kim So-Rim

김 수진 (金 秀珍)
Kim Su-Jin

고 철민 (高 哲珉)
Ko Chul-Min

김 지연 (金 志妍)
Kim Ji-Youn

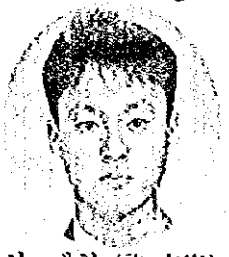

이 재천 (李 宰天)
Lee Jae-Chun

이 제홍 (李 制洪)
Lee Je-Hong

안 병욱 (安 秉煜)
Ahn Bung-Uk

박 연희 (朴 蓮姬)
Park Yeon-Hee

윤 상희 (尹 相熙)
Yun Sang-Hee

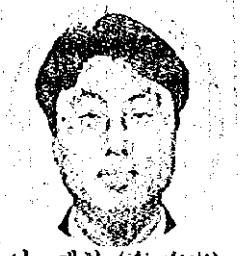

허 태헌 (許 泰憲)
Huh Tae-Huhn

이 재순 (李 在順)
Lee Jae-Sun

김 자영 (金 慈鍈)
Kim Ja-Young

이 은필 (李 殷筆)
Lee Eun-Pil

이 강진 (李 康鎭)
Lee Kang-Jin


이 재현 (李 在玄)
Lee Jae-Hyun

이 도형 (李 道炯)
Lee Do-Hyung

青年招へい事業 ―韓国―〔交流レポート〕(1996)
平成9年3月31日

発行　国際協力事業団研修事業部青年招へい課
〒151 東京都渋谷区代々木2丁目1-1
新宿マインズタワー
電話　(03) 5352-5402～3
編集　(財)日本国際協力センター 国際交流部
〒163-04 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル内
私書箱300号 (9階)
電話　(03) 5322-2561

無断転載を禁じます。

JICA

Japan
International
Cooperation
Agency

国際協力事業団